

第3回研究実践奨励賞



◆受賞のことは◆

聴覚しょうがいのある子どもたちとともに

内山 涼

(東京都立立川ろう学校教諭／福祉学科 2015年卒業)

この度は、第3回研究実践奨励賞を賜りましたこと、大変心より嬉しく光栄に存じます。論文を投稿するにあたり、ご指導を頂きました熊上崇先生には深く感謝申し上げます。また、本論文には多くの方のご協力を頂いたからこそ書くことができました。この場を借りて御礼申し上げます。

本論文を執筆して、聴覚しょうがいのある子どもたちの力になりたいという思いを抱き、2015年に福祉学科を卒業しました。あれから約1年、私は、ろう学校（聴覚障害特別支援学校）の英語科教員として働いております。立教大学で過ごしたことで「特別支援学校教員になりたい」という夢を与えてくれました。その夢が叶いました。改めて感謝申し上げます。

現在働いている中で様々な思いを抱いております。分かりやすい授業を作るには、子どもたちが学びたいという気持ちを引き出すためには、しょうがいのある子どもたちが自立するためにより良い支援をするには等、どうしたら良いのかとあれこれ考えながら日々子どもたちに向き合っています。聴覚しょうがいのある子どもたちといっても様々です。手話を母語にする子どもたち、聴覚活用ができる子どもたち、発達しょうがいを併せ持つ子どもたちと様々な子どもたちがいます。少しずつ子どもたち一人ひとりの素敵なところを探すことを目標にしています。「野球が大好きです」と笑顔で話す子ども、「英語が好きになりました」とうれしい言葉をだしてくれた子ども、下級生の面倒をすすんでみる子ども、体調悪い同級生を気にかける優しい子ども、等まだまだ見つけることができている彼らの顔がたくさんあります。

本論文を通して通常校に在籍する聴覚しょうがいのある子どもたちの実態について書きましたが、まだまだ彼らの環境は十分とは言えません。地域の学校で悩んでいる子どもたちがまだ隠れていると思います。私が毎日接している子どもたちも地域の学校で過ごしている子どもたちもしょうがいがあっても「学びたい」という心を引き出し、それが保障される教育が広まることを願っています。私も教員としてそのような社会になることができるように努めてまいりたいと思います。そして、私の担当している子どもたちが聴覚しょうがいを持っていることを強みに自信をもって社会の中で過ごすことができるように支援していきたいと思っています。まだ教員1年目。これから経験を積んで精進してまいりたいと思います。みなさまもお力を貸していただけますと幸いです。改めて立教大学の卒業生として研究実践奨励賞に選ばれましたことを光栄に思います。